

阿蘇の農業が日本を救う



農業みらい公社では、農業の最新知識や技術を取得し、農業経営の安定化や活性化を図ることを目的として、日本の食料安全保障問題の第一人者として食糧危機への対応を訴え続けている東京大学大学院教授の鈴木宣弘さん、化学合成農薬や化学肥料を使わずに微生物の力を借りて土づくりをする菌ちゃん農法を実践している吉田俊道さんの2人を講師として招き、講演会を開催します！



鈴木宣弘さん



吉田俊道さん

- 日 時：11月19日(水)
午後1時30分～(午後1時受付開始)
- 場 所：南阿蘇中学校第1体育館(車でお越しの際は、中学校グラウンド駐車場に駐車してください。)
- 講 師：鈴木宣弘さん(東京大学大学院教授)
吉田俊道さん((株)菌ちゃんふぁーむ代表)
- 申込方法：二次元コードを読み取り、申し込みフォームから入力をしてください。
(※当日会場での受付も可能)



申し込みフォーム



会場周辺地図

〈問い合わせ〉農政課 有機農業推進係 TEL0967 (67) 2706

南阿蘇村農業みらい公社通信 Vol.38



農業公社では農業の理解促進のため、水田や落花生のオーナー制度も行っています。

今年は9月13日にオーナー水田の稲刈り、14日に落花生の収穫を行いました。

オーナー製の落花生は「おおまさり」という千葉県で育成された大粒の落花生で、塩ゆでで食べるのがおすすめの品種です。5月に種まき、7月にビニールマルチはぎを経て、9月に収穫を迎

えました。落花生はここ数年収穫量が少なくなっていたため、1区画の面積をこれまでの2倍に広げ、収穫時期も早めにしたことで、1区画の20粒の種から9kgの収穫があったところもありました。

また、今年は稲わらを使った鍋敷きづくりや、塩ゆで落花生を使ったペースト作りなどのワークショップも行い好評でした。



落花生収穫



わらの鍋敷づくり